

赤い羽根福祉基金「社会課題テーマ助成」
「居場所を失った人への支援活動応援助成」の第13回助成決定にあたって

2026 年 7 月 17 日

1.応募状況の概要

○居場所を失った人への支援活動応援助成第13回への応募状況は、148件（3億6,505万円）でした。

○応募した団体の所在地は、東京都が21件、北海道が11件、愛知県が10件、京都府・大阪府が8件、千葉県・神奈川県・兵庫県が6件、宮城県・福島県・埼玉県が5件、静岡県・岡山県・福岡県・鹿児島県が4件、岩手県・香川県・愛媛県・大分県が3件、秋田県・栃木県・新潟県・富山県・島根県・徳島県・佐賀県・熊本県が2件、青森県・山形県・茨城県・群馬県・石川県・長野県・三重県・滋賀県・和歌山県・広島県・山口県・宮崎県・沖縄県が1件で、40都道府県から応募がありました。

○応募した団体の法人種別は、NPO法人が95件、一般社団法人が25件、任意団体が16件、社会福祉法人が4件、その他が8件でした。

2.助成決定の概要

○応募いただいた団体の審査を行った結果、23団体、総額5,817万円の助成を決定しました。

○応募要項に照らし合わせて審査を行い、必要性・緊急性が高い活動、また確実に効果的な支援につながる活動であると応募書から判断されるものを決定いたしました。

3.第13回助成決定にあたって（審査委員長コメント）

本助成は、近年の物価高騰や地域コミュニティの希薄化、単身世帯の増加など社会環境の変化により、経済的困窮や社会的孤立に直面する人々に対する支援活動を応援する目的としたものです。赤い羽根福祉基金「社会課題テーマ助成」のプログラムとして実施するものです。

ご応募いただいた各団体の応募書からは、物価高騰等による経済的な困窮や、社会的な孤立の深まりといった課題が依然として地域社会で深刻であり、さまざまな困難を抱える人たちへ引き続き支援を行う必要性が強く感じられました。

採択された活動は、DV 被害者や若年妊婦など複雑な困難を抱える女性に対するシェルターの提供や相談窓口の開設、生活困窮者や行き場を失った若者等へ緊急的な住まいを提供し入居後の生活や就労まで継続的に伴走する包括的な支援活動、不登校やひきこもりの子どもや若者に対する居場所提供や農福連携などを通じた中間的就労の機会を提供する活動など、多様な取り組みが見られました。

また、多様化する課題に対して独自のアプローチを行う特徴的・先駆的な案件も採択されました。例えば、がん患者の家族（特に影響が大きいきょうだい児の子どもや若者）という制度の狭間に置かれやすい層に対して、緊急かつ継続的な支援を行い、その必要性をモデル化しようとする活動がありました。また、支援する・されるという一方向の関係にとどまらず、地域住民が無理なく関わり続けられるような参加メニューや仕組みにより、地域の中で関わり合いが循環し続ける状態を目指し、独自の評価指標を開発するユニークな居場所づくりの取り組みがありました。

一方で、残念ながら採択に至らなかった応募書には、いくつかの共通する傾向が見られました。第一に、団体が従来から行っている通常活動の維持継続（特にスタッフの人件費や事務所維持費の確保）を主目的とした応募と判断されるものが非常に多く見られました。

第二に、事業の具体性や実効性が読み取りにくい案件があり、対象者のニーズや地域の課題と事業内容がどのように結びついているのか不明確で、活動の効果が読み取れないものや、単なる食糧・物品の提供や拠点整備のみにとどまり、その後の継続的な支援や根本的な課題解決につながる「出口」が見えにくい活動が散見されました。

第三に、地域の関係機関との連携体制の記載がなく自団体のみで活動が完結してしまっているものや、指定様式外の書類の提出や助成対象外の法人格からの応募といった書類不備、助成終了後の自立的な資金計画が乏しいものなど、団体運営の基盤や持続可能性に疑問が残る応募書も複数見受けられました。

複合化する社会課題に対し、単独の組織のみで解決を図るには限界があります。助成が決定された団体のみなさまには、地域の関係機関や住民との「協働」を視野に入れた、広がりある事業展開を期待します。本助成金を採択団体の資金面や人的基盤の支えとして活用し、それぞれの団体が直面する課題の解決に向けた活動を十分に展開してください。

最後に、助成が決定された団体のみなさまには、本助成金が「赤い羽根福祉基金」にご賛同いただいた企業や団体、個人のみなさまからの寄付金をもとに成り立っていることを踏まえ、助成を受けた活動に対する理解や、共感や協力の輪を広げていただくことを願います。今回助成が決定した事業・活動が展開される地域社会において、それぞれの取り組みが今後、持続可能な形で定着・発展されることを強く望みます。

「居場所を失った人への支援活動応援助成」審査委員会
委員長 和田 敏 明